

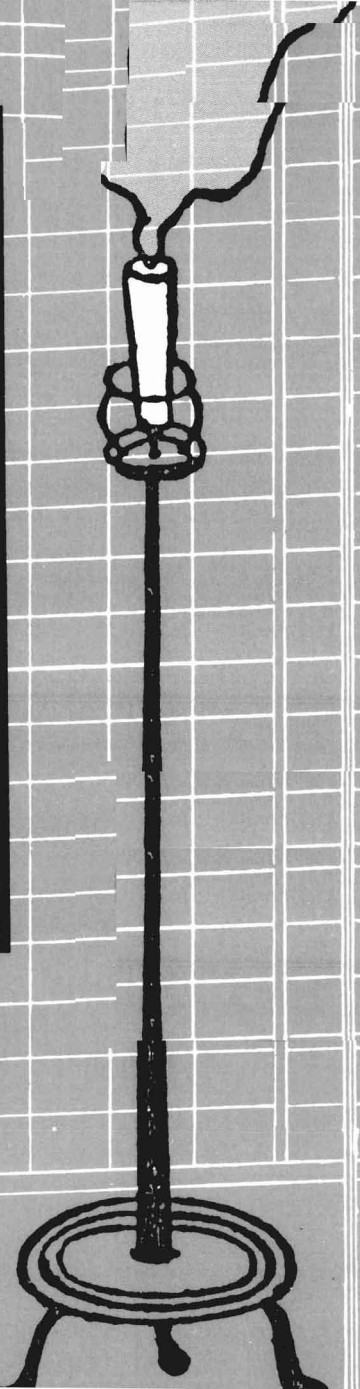
興津要

江戸小咄漫歩



興津要

江戸小咄漫歩



興津要（おきつ・かなめ）

一九二四年、栃木県に生まれる。早稲田大学文学部国文科卒業。現在、早稲田大学教育学部国語国文科教授。日本近世文学を専攻。著書として『転換期の文学——江戸から明治へ』（早稲田大学出版部）『落語——笑いの年輪』（角川書店）『異端のアルチザンたち』（読売新聞社）『江戸庶民の人情と風俗』（桜楓社）などが、編著として『古典落語』『江戸小咄』『続江戸小咄』『東海道中膝栗毛』（いずれも、講談社文庫）などがある。



えど こばなしまんぼ
江戸小咄漫歩

一九八一年六月一〇日第一刷印刷
一九八一年六月一五日第一刷発行

著者 興津 要

発行者 堀田佐久夫

発行所 株式会社 作品社

制作・作品企画

東京都千代田区飯田橋二ノ七ノ四
〒103 電話(三)二六二九七五三
振替口座 (東京) 六二七一一八三

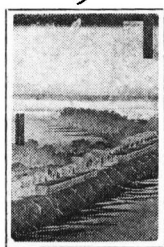
印刷——図書印刷

製本——図書印刷

定価——九八〇円

©Kaname Okitsu 1981

江戸小咄漫歩



目次

漫歩・其の一

上野^{うえの}——死は嚴肅な事実——自分の死をも度外視した男の滑稽な願望とは？

15

上野山下^{うえのやました}——盛り場にスリはつきもの——そこで、スリの名人に挑戦したそ、こつ、者は……

19

仏店^{ほとけだな}——私娼を買った和尚さん、堅物の檀家のおやじに見とがめられて……

21

不忍^{しのばず}の池^{いけ}——ラブ・ホテルに密会する男と女……。今も昔も変わらぬ色模様

24

笠森稻荷^{かさもりいなり}——いつの世も、男は美人に弱いもの。江戸で評判の看板娘・笹森おせんとは……

34

根岸^{ねぎし}——茶の湯の会で茶わんの中に水はな落とした男がいた。さて、その結末は……

38

湯島天神^{ゆしまてんじん}——男女の密会を望遠鏡でのぞいていた男が、思わず望遠鏡を耳にあてた……

41

大根畑^{だいこんばたけ}——大根畑に出没する娼婦に群がる男たちの、はかなしい一ト切の遊び

46

桜^{さくら}の馬場^{ばば}——地獄の沙汰も金次第、地獄へ行くのも色と欲

49

本所 ほんじよ

——鼻の大きな男を見込んで結婚した娘、新婚初夜に「ウソつき、ウソつき」

51

回向院 えこういん

——貧乏神にとりつかれるだけでも大迷惑なのに、貧乏神の家族にも一緒に住みこまれた……

55

本所松坂町 ほんじよまつざかちやう

——赤穂城明け渡しするとき、大野九郎兵衛はなぜ、討ち死案に反対したのか

61

吉田町 よしだちやう

——なんと、六十歳のオババ街娼もいた夜鷹の巣窟とは……

65

深川 ふかがわ

——深川といえは辰巳芸者。芸に生きる彼女たちではあったが……

69

亀井戸天神 かめいどてんじん

——一番目に好きなものは？ ときかれ、二番目は酒、と答えた男の奥ゆかしさ

76

葛西 かさい

——これをまさしく「黄金伝説」というくさしいおはなし

80

漫歩・其の二

神田明神 かんだみやうじん

——祭りは神田っ子の心意気——。うれしい祭り風景

89



須田町すだちょう——果物の市場や問屋でにぎわった須田町。そこで生まれた蜜柑エレジー 93

柳原やなぎわら——女郎の腰巻で頭巾をつくりたがる男。江戸の昔にもいたフェティシスト 95

お玉が池たまが池——剣豪・千葉周作で有名な神田はお玉が池の珍伝説 100

駿河町するがちょう——世界最初のデパート形式の呉服店に泥坊が入った…… 103

本町ほんちょう——顔色のさえない男、精力剤ならぬ精力減退薬を買いにきた？——弱き者よ、汝の名は男なり 110

通り町とおちょう——毛の抜けない毛抜きを買った男のはなし 114

四日市町よつかいちよう——エロチック・ムードただよう三河万歳は漫オブームの元祖 117

杉の森稻荷すぎのもりいなり——富くじて思いがけず大金を握った男の悲喜劇 122

馬喰町ばくろちょう——馬喰町ゆえ、馬にちなんだはなしは数々あるが、なかにはSFも…… 125

両国橋りやうごくばし——火事と喧嘩は江戸の聲——。しかし、世にも奇妙な喧嘩もあったもの 130

両国りやうこく広小路ひろこうじ

—— 屁で長唄から端唄・一中節までなんでも演奏したという屁んなはなし

135

薬研堀やげんぼり

—— 張り形や肥後すいき——。江戸の町にもあったボルノ・シヨップ

142

芳町よしちょう

—— 江戸の昔にもいたゲイ・ボーイのはなしなど

148

目黒不動尊めぐろふどうそん

—— たとえ夢の中てさえ、わが子の遊里通いを阻止した、あつゝい親心

158

品川宿しながわじゆく

—— 品川通いに熱中する名僧智識ならぬ迷僧痴識のはなしなど

162

品川沖しながわおき

—— オーバーな殿様とオーバーな家来たちによるオーバーなはなし

168

海晏寺かいあんじ

—— 物知り顔の自慢屋の失敗談

171

王子稻荷おうじいなり

—— オソロシイ丑の時参りに、これはまた、とんだシマラナイおはなし

175

飛鳥山あすかやま

—— 江戸をまるつきり知らない男、飛鳥山を相撲取りと間違えた……

180

雑司ヶ谷ぞうしや

—— 出産の神である鬼子母神に、産児制限をもちかけた男がいた……

183

新宿 しんじゅく

最新ファッション・モードの街・新宿は、その昔、馬糞の町だった……

186

堀の内 ほりうち

どこにてもいるそこ、つ者——そのそこ、つ者に会った日には、神さまもやりきれない

191

漫歩・其の三



向島 むこうじま

夢の中で浮氣をした夫に嫉妬する妻のはなし

197

三国神社 みめぐりじんじや

馬は巨根、狐は狹陰のたとえあり。さて、両者が交われば……

201

秋葉神社 あきはばじんじや

久米の仙人が、もし、銭湯の番台にあがったなら……

206

弘福寺 こうふくじ

下女の秘所にもぐり込んだ蛇が、なぜすぐに出てきたか、というはなし

210

牛の御前 うしごぜん

神様を拝まずに、女の奥の院を拝んだ男のはなし

219

関屋の里 せきやさと

深窓の佳人がみせた、幻滅の悲哀の風景とは……

224

浅草あさくさ——小便の近い男が観音様に願かけた。さて、御利益は？

226

仁王門におうもん——仁王さんの一物に紙つぶてを投げつけた男の、さて、その願いとは？

232

二十軒茶屋にじっけんぢや——きれ痔、いぼ痔、痔ろうといろいろあれど、一番こわい痔は？

236

雷門かみなりもん——乗せた客に酒手をねだる駕籠屋、そうはさせじとする客の丁々発止ちようちようはつしのかけひき

239

並木なみき——本物の通人と怪しげな色男。対照的な二人

242

駒形こまがた——気前のいい江戸前の鰻と、江戸っ子の風上にもおけぬケチな男たち

245

今戸いまだ——不美人の代名詞・郷土民芸の今戸焼にちなんだはなし

247

真崎稻荷まつさきいなり——財産を減らそうとする大金持が、逆に金に追いかけられた……

251

柳橋やなぎばし——さすが江戸前のウサギ、粹で喧嘩がめっばう強い！

256

蔵前くらまえ——ここで逢ったが百年目のここがトイレであつたら、というくそくて、ぶっそうなはなし

260

首尾の松しゆびまつ

吉原通いの通人になること間違いなし、という赤ん坊が生まれた！

264

吉原への道よしわらみち

両腕を切り落とされても、プロの誇りを失わなかった大工のはなし

267

お歯ぐろ溝はおぐろどぶ

足抜けの遊女、田圃に落ち、通りかかったなじみの客に声をかけるが……

270

大門おおもん

親にかくれての遊里通い。しかし、気の弱い男もいたものだ！

272

五丁町ごちやうまち

さすが色里の犬。セックスの後始末の紙を食べて……

274

九郎助稻荷くろうすけいなり

欲の深い遊女のお参りに、賽銭箱をかかえて逃げた神さま

278



張り見世はりみせ

「吉原・付二」のどかな昼見世風景——そこで、茶わん屋のはなしなど

281

遊女の階級ゆうじよかいきゆう

「吉原・付二」廊ことばの「ありんす」は、遊女のお国なまりを隠すためだった！

284

禿かむろ

「吉原・付三」鼻をセックス・シンボルと間違えられた天狗のはなしなど

287

たいこもち

〔吉原・付四〕

うるさくしゃべりまくるたいこもちを沈黙させる方法があった！

290

遊客種々相

〔吉原・付五〕

遊女から毎日々々手紙をもらった男のとばけたはなしなど

293

江戸時代の略図・現在の東京区分地図

298

あとがき

300

●目次扉——広重『名所江戸百景』のうち「よし原日本堤」
●目次カット——同「日本橋通一丁目略図」「王子稲荷乃社」(部分)

《凡例》

本書では、原典のままで理解しやすい小咄をえらび、カッコのなかに訳注をほどこすという方針をとった。それは、現代語訳にしては、江戸小咄の歯切れのいい、きびきびした持ち味が生かせないという理由にはかならない。また、引用した小咄のつぎの諸点については、多少手をくわえてある。

一、清濁音の極端なあやまりは訂正した。

一、仮名では意味不明のことばは、漢字にあらためた箇所もある。

一、漢字に送り仮名がなくて判読に苦しむものには送り仮名を付した。

一、仮名づかいのあやまちも見られるが、これは、庶民の読み物の特色なので、あえて訂正しなかった。

一、「いろく」「さてく」などは、「いろいろ」「さてさて」とした。

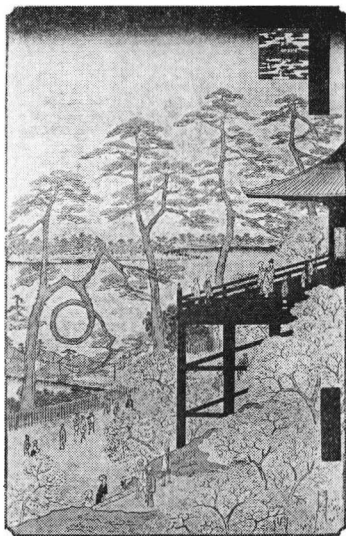
一、会話には、「」をすべてほどこした。

一、川柳の下にある6ポイント活字は出典をしめす略号で、柳は柳多留、拾は柳多留拾遺、末は末摘花などであり、宝・明・安・天などは、宝暦・明和・安永・天明など年号の略で、その下の天・満・宮・鶴・亀・仁・義・礼などは、川柳評万句合の摺り物の発行時をしめす合印である。

江戸小咄漫歩

へどこばなしまんぼ

漫歩・
其の^そ
一



広重「名所江戸百景」のうち
「上野清水堂不忍ノ池」

